



# 2月 ほけんだより

2024/2  
発行

000

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続いています。空気の冷たさを肌で感じたり、白い息を吐いたり、子どもたちは小さな体でまると季節を感じながら過ごしています。園内でも、子どもたちの元気な声と笑い声に溢れ、不思議と寒さも忘れてしまいます。冬の遊びや楽しみを見つけながら、今月も元気に過ごしていきたいと思えます。



## 節分！1年で1番あぶない日！



「鬼は外！福は内！」と大きな声を出し、その1年、家族が無病息災で過ごすことを願うというものです。この豆まきに使われる豆ですが、従来は煎った大豆が使われることが多かったようですが最近では、豆まきをしたあと拾って食べることができるなどの理由から、殻付の落花生を使用されることも多くなっているようです。

『殻がついているから大丈夫！』と思う方もいると思いますが、安心してはダメです！

### ◎豆まきは大豆や米でしましょう

#### 殻付き落花生によるアレルギー反応

##### ★まいたピーナッツの殻の粉

ピーナッツを踏みつけて粉々になった殻の粉

→喘息発作・目の腫脹・アレルギー鼻炎

##### ★ピーナッツを食べる

→蕁麻疹・アナフィラキシー

##### ★ふざけながらピーナッツを食べる

→気管に吸い込み窒息・肺炎

##### ★まいた殻付きピーナッツを食べる

→ボツリヌス・ペットの寄生虫感染の危険

※アレルギーが怖いと思う方はお米をまくことをおすすめします！

大豆から殻付き落花生に代わった理由を調べてみると、「大豆をまくと、土がついてしまうのでまいてから拾って食べれない」「まいた後の片づけが楽である」という意見が多かったです。しかし、土やほこりがついた落花生を洗わずに、手で食べる。または口で割って食べる＝「清潔」と勘違いして食べることのほうが、危険です！危険な落花生より安全な大豆・お米を使用し鬼に思いきりぶつけて子どもたちの健康を願いましょう。



## 低温やけどに注意しましょう

やけどをして救急車で運ばれた人のうち、最も多いのが1歳児。次いで0歳児です。やけどというとストーブやアイロンを思い浮かべるかもしれませんが、一番多い原因は、みそ汁やスープなどの熱い食べ物。やけどはちょっとしたすきに起こるので、注意しましょう。

### 家庭での事故(傷害)予防のポイント

手の届く範囲を確認し、やけどの危険がある放食物は子どもの手の届かない場所に置きましょう

また、テーブルクロスは使用しないようにしましょう

調理器具は、使用中と使用後温度が十分に下がるまで、近くに子どもを近づけないようにしましょう

電気ケトルやポットは、倒れても中身がこぼれにくい製品を選びましょう

加湿器や炊飯器は、蒸気が出ない、もしくは高温の蒸気がでない製品を選びましょう

電源コードが磁石などで容易に脱落するタイプの製品を選び、電源コードもまとめて、子どもの手の届かない場所に設置しましょう

### 応急処置のポイント



やけどをしたら、**すぐに流水で冷や**しましょう。**20分間は冷や**してください。**氷水はおすすめしません。**

20分

服の上から熱湯を浴びた	やけどの範囲が広い	やけどの面積が広い	顔や頭、指の関節をやけどした
無理に脱がせようとせず <b>着衣のまま</b> 冷やしましょう	冷やしてる間に <b>体温が下がりすぎない</b> ように気をつけましょう	20分間冷やした後 <b>すぐに医療機関を受診</b> して下さい	やけどの範囲が小さくても <b>医療機関を受診</b> して下さい

医療機関が遠い場合などは、**救急車の利用**を考えて下さい。

\*熱い物は子どもの手の届かない場所に置き、子どもの食事は冷ましてから食卓へ。また、だっこしたまま調理したり、熱いお茶などを飲んだりするのもやめましょう。

## 感染性胃腸炎

胃腸炎が流行する季節となりました。保育園内でも嘔吐・下痢・腹痛などの症状があるお友達が少しずつ増えてきています。保育園でも感染対策を行って行きたいと思えます。登降園時保健のお知らせの確認もお願いいたします。消毒方法や処理の仕方など適切に行うことで家庭内感染を防げます。家庭内での消毒・処理方法について分からないことがありましたらお声掛けください。